

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日(土)～12日(日)

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

ワークショップ 28	
企画名	CASP ワークショップ ～臨床研究を用いた医療の意思決定を多職種で学ぼう
日時	2016年6月12日(日) 13:30～15:00
会場	第11会場 (台東区民会館 8階 第4会議室)
企画責任者	高垣伸匡 (千春会病院)
定員	24名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】 関西～中国地方で定期的で開催されている、CASP Japan による EBM ワークショップをショートバージョンで紹介する。</p> <p>【概要】 EBM は世界的に普及した医療者の行動・思考様式であり、その内容は臨床疫学や教育手法など、極めて重要かつ高度で多岐にわたる。現在では医療判断決定の根拠となるガイドラインの作成にも大きく影響を与えるようになったが、日本においては医療系学生や医療者が EBM 教育を十分にうける機会は乏しいのが現状である。海外のイギリスやカナダでは EBM ワークショップが定期的で開催されており、学習者を支援している。EBM 普及のために活動する組織の一つが CASP international(Critical Appraisal Skills Programme)である。CASP international の日本支部である CASP Japan は、倉敷中央病院総合診療科兼研修医教育部長の福岡敏雄により 1999 年に設立され、EBM を普及する活動を展開してきた。これらの教育・学習活動により参加者の一部は医療者、学生を問わずチューターやコーディネーターを出来るまでに成長しており、CASP は学習者が自律的に成長できるプログラムであると考えている。今回は CASP Japan の指導下に EBM 学習会やワークショップ活動を展開している近畿～中国地方のメンバーにより、CASP ワークショップを紹介する。</p> <p>内容の概略は、</p> <ol style="list-style-type: none">1) EBM 概論：EBM の基本と文献の研究デザインについて2) 疾患概論：使用する文献が対象とする疾患の基本3) PICO の実践：EBM の Step14) エビデンスの吟味：EBM の Step35) エビデンスの適用：EBM の Step4	